

編集・発行：三重県環境生活部新博物館整備推進プロジェクトチーム

ともに考え、活
動し、成長する
博物館にむけて・みんなで作る博
物館会議「こども
会議」を開催しま
した！ …P1・お待たせしまし
た！公式 Twitter
アカウント始動
…P1・基本展示室のみど
ころ紹介
…P2・新博のみっちゃん
…P2・ただ今 調査研究
と資料収集をして
います
…P3・新県立博物館には
驚きがいっぱい
博物館を歩いてみ
よう …P4・みんなで作る博
物館 たくさんの方
にご意見をいた
だいています
…P5・平成 24 年度 三重
県立博物館移動展
示 …P6・三重大学との連携
事業 …P7・建設現場の進捗状
況 …P8

・お知らせ …P8

みんなで作る博物館会議「こども会議」を開催しました！

A Children's Conference for Making our Museum Child-friendly



座談会の様子

11月4日(日)に、「こども会議」を開催しました。小学3～5年生を中心に幅広い年齢層から応募があり、当日は子ども60名、大人30名の総勢90名という多くの皆さんにご参加いただきました。今年度は『博物館ってなんだろう?』をテーマに、子どもたちと一緒に建設工事中的新県立博物館を探検して、博物館の役割について考えたり、新しい博物館を楽しむためのアイデアを話し合ったりしました。

建設現場見学では、工事担当者と学芸員の案内で、完成したら滅多に見ることの出来ない収蔵庫の中や研究室といった“博物館の裏側”を探検しました。後半の座談会では、チームに分かれて、建設現場に隠された博物館ならではの工夫を見つけるクイズを行い、子どもたちからは『こんな博物館だったらいいな』についてたくさんの意見が出ました。

(中村 千恵)

子どもたちからの意見

- ▶三重県にこだわった博物館にして欲しい
- ▶バックヤードツアーや季節のお祭りを開催して欲しい
- ▶学芸員に気軽に質問できる場所が欲しい



三重についてのクイズ



建設現場見学の様子

お待たせしました！公式 Twitter アカウント始動

Our Official MPM Twitter Account



三重県立博物館公式 Twitter アカウントが始動しました！行事のお知らせや、博物館の日々の出来事を発信していきます。

https://twitter.com/mie_pref_museum

ただ今 調査研究と資料収集をしています

Research, Investigation, Collection – Forming a Reputable Museum

文化財害虫対策に取り組んでいます

The Conservation for Cultural Properties

博物館では文化財などを食害する昆虫を「文化財害虫」と呼んでおり、代表的なものに、木材を加害するキクイムシ、紙を貫通食害してしまうシバンムシ、皮革や動物剥製などを好んで食害するカツオブシムシなどがいます。文化財や資料は、穴が開いたりボロボロにされたりすると、二度と元には戻らず、取り返しのつかないことになってしまいます。

これまで博物館では年に一度、収蔵庫を化学薬剤で燻蒸してきました。しかしこの収蔵庫燻蒸は

人の健康や周囲の環境への影響が懸念されることから、今後博物館としては出来るだけ収蔵庫燻蒸を控えたいと考えています。

そこで収蔵庫の定期的な点検や、粘着式トラップを使った文化財害虫調査を行い、「どんな」虫が「どこ」に「どれだけ」いるのかを調査しています。これにより早期に文化財害虫を発見でき、大発生を避けることができます。

また博物館の外から新しく収蔵庫へ資料を受け入れる際には、低温殺虫

処置（-20℃以下で1週間以上）を導入し、薬剤を使用しない殺虫処置を行っています。これにより、館外からの文化財害虫の持ち込みを未然に防ぐことができます。

新県立博物館においては、薬剤処置だけに頼らず、あらゆる有効な手段を組み合わせ、文化財害虫による被害を低減する取り組み（IPM: Integrated Pest Management/総合的有害生物管理と言います。）を行っていく予定です。

(間瀬 創)



低温殺虫処理の様子



文化財害虫のニセセマルヒョウホンムシ

公文書館機能整備をしています

The Preparation for Preserving Archives

三重県では、「公文書は事務能率の向上や情報公開に対応できるよう、適正に管理しなければならない」とする公文書管理規程を定めています。公文書は、その内容の重要性などにより保存する年限が決められており、保存期間5年以上の文書については、一定期間経過後に法務・文書課が所管する総務部書庫で保存されます。さらに、保存期間が満了した時点で、文化振興課に引き継がれることになっています。

これらの公文書は、県行政の重要事業や主要事業

であるか、三重県の歴史・文化の形成を跡づけることができるかどうかを評価選別され、引き継いだ公文書の5%前後の簿冊がいわゆる歴史的公文書として保存されていきます。三重県では平成6年度から専門の職員によって評価選別作業を行っており、これまで5,600冊余りを保存してきました。

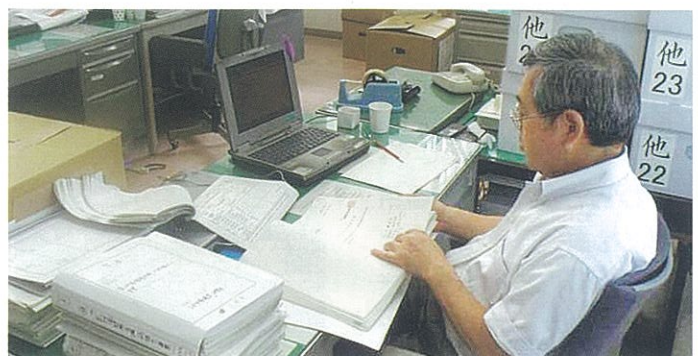
現在は、その歴史的公文書を公開するための施設がなく、規程や仕組みができていないために公開されていません。平成26年開館予定の新県立博物館では、これらの歴

史的公文書等を保存・公開する公文書館機能を、一体的に整備することになっています。現在、歴史的公文書の公開をするための規程づくりや、それに伴う整備を進めています。

さらに、保存期間を満了した公文書の収集・評

価選別・整理・公開までの一連の流れの仕組みづくりなど、文化振興課をはじめ県庁の各部署と協力しながら構築していません。開館後には多くの歴史的公文書を公開できるよう、努力していきたいと考えています。

(藤谷 彰)



公文書の選別作業

新県立博物館には驚きがいっぱい 博物館を歩いてみよう

Come discover delightful surprises! Walk through the New MPM

このコーナーでは新県立博物館の魅力ある空間、展示室、収蔵庫などをシリーズで紹介していきます

こども×(わくわく+どきどき)×モノ= ともだちのできる博物館！こども体験展示室

Children will enjoy the hands-on discovery room

こども体験展示室は、「やってみる」「しらべる」「つたえる」など、日頃学芸員たちが行っている博物館活動を身近な話題で体験することで、子どもたちにとって博物館の楽しさを知るきっかけをつくる部屋です。



「やってみる!!」のコーナー

こどもたちが好きな、登ったり降りたり、もぐってみたりできる場所に、三重の海・川・山・地面・暮らしについてのいろいろな情報をつめこんだコーナーです。たとえば、「海のはなし」のコーナーでは、海女さんがアワビを捕るときに使う、とっておきの道具を紹介します。「山のはなし」コーナーでは、土の中に隠れている生きもの

を探したりします。私たちの身のまわりには「なんで??」「なんだそうだったのか!」と思うことがいっぱいです。学芸員たちはそんなギモンやビックリが大好きで、日々何かないか探しまわっています。みんなも一緒に「ガクゲイイン」やってみませんか?



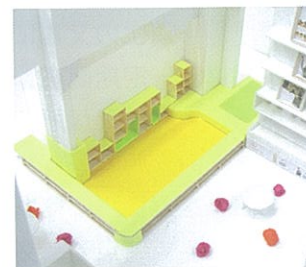
「しらべる!!」のコーナー

この虫は何ていう名前だろう? 杉の花粉ってどんな形してるんだろう? あなたの家のお雑煮は味噌汁? それともすまし汁? などなど。調査カードや図鑑や事典、顕微鏡などふだん学芸員たちが使っているいろいろな道具で、三重の自然や暮らしについて、みんなが不思議に思ったり、わからないことをしらべてみるコーナーです。また、い

ろんな体験ができる「なにコレBOX」も用意しています。

「つたえる!!」のコーナー

里山で見つけた木の实や昆虫など、季節の生きものや暮らしについて、みんなが見つけたこと、発見したこと、おもしろいと思うことなどを展示するコーナーです。季節の飾り付けなどもみんなで作って展示します。



小さい子のコーナー!!

小さい子のコーナー!!

「あかちゃんもハグブツカンする」というコンセプトのコーナーです。やわらかい素材の場所で、絵本を見たり、まったりごろごろしたりできます。小さいお子さんと保護者が一緒にゆっくり

と楽しめる空間になります。ちょっとした滑り台も用意する予定です。ここからは、外のミュージアムフィールドもながめることができます。

今、担当者たちは、子どもたちにとって何が楽

しくておもしろいか、どんなことがうれくなるネタか、毎日頭を悩ませています。

(岸田 早苗)



みんなでつくる博物館 たくさんの方にご意見をいただいています

Collecting Opinions for the New MPM

新三重県立博物館（仮称）経営向上懇話会を開催しました

A meeting for improving the management of the New MPM

新県立博物館の活動や運営に関して、各方面の有識者から助言をいただく場として「新三重県立博物館（仮称）経営向上懇話会」を実施しています。

平成24年度1回目の会合は7月24日（火）に開催し、新県立博物館の運営形態に関する考え方について、以下のようなご意見をいただきました。これらを踏まえながら、効果的・効率的な運

営に向けた方針やしくみの構築を進めていくこととしています。

（山崎 章弘）

いただいた主なご意見 運営形態等について

▶博物館は専門的な知識や継続性が必要なので、資料収集や調査研究といった学芸部門は、指定管理者ではなく県として責任を持って取り組む方がよい。

※新県立博物館の運営体制については現在検討中であり、

指定管理者制度の導入を決定したものではありません。

開館日・開館時間について

▶利用者目線で考える必要がある。例えば、展示エリアが閉まった後も、自由に入れる場所（交流創造エリアなど）は、開館時間の延長を検討してはどうか。



当日の様子

県民参加組織（友の会、ボランティアなど）について

▶博物館のボランティアをやっていることで自分が豊かになれたり、博物館の活動に参加することがステイタスとなるようなものにしてほしい。



三重県障害者社会参加推進協議会との意見交換会を行いました

Making the New MPM Universally Accessible

9月5日（水）に、三重県障害者社会参加推進協議会の皆さんとの意見交換会を開催しました。今回は県内にある15団体の皆さんから、点字ブロック等設備面を中心に、運営体制も含めた新県立博物館のユニバーサ

ル・デザインについて、以下のようなご意見をい

いただきました。

（中村 千恵）



点字ブロックと床材について説明

いただいた主なご意見

▶ランプ等の施設整備だけでなく、職員の非常時訓練をしっかりして欲しい。
▶点字ブロックは視覚障がい者だけでなく、車いす使用者にも関わる問題であることを理解して欲しい。

第1回サポートスタッフ全体意見交換会を開催しました

"Support Staff" Offers Suggestions for Composition of the New MPM

9月23日（日）に、新県立博物館での県民参画組織について、三重県立博物館サポートスタッフの皆さんとの意見交換会を開催しました。話題は9つあるグループ活動の方向性から、新設される予定のボランティア組織に関する事など多岐にわたりました。

平成23年度から、開

館後のあり方についてサポートスタッフの皆さんと検討を重ねており、多くの意見をいただきました。今回はそれらをふまえた上で、博物館側から各グループの自主的活動を支援し、より多くの方が博物館を楽しめるような体制の提案を行い、意見交換を行いました。

（中村 千恵）

いただいた主なご意見

▶今までのグループ活動を継続して欲しい。
▶より深い関心を持つようになった子どもたちへ

の対応を充実させて欲しい。

▶各グループをまとめる事務局のようなものが必要だと思う。



会場の様子



県民参画組織イメージ図

平成 24 年度 三重県立博物館移動展示 「海の恵みとにぎわい～英虞湾と熊野灘から～」

The traveling exhibition in 2012 titled "The Blessings and Biodiversity of the Sea – the bay of Ago and the open sea of Kumano –"



移動展示会場

7月25日(水)から9月2日(日)まで志摩市歴史民俗資料館で、志摩地域の自然と暮らしを紹介する「海の恵みとにぎわい～英虞湾と熊野灘から～」を開催しました。移動展示とは、南北に長い三重県の各地域において展覧会を開催する事業です。移動展示のひとつの考えとして、博物館の収蔵資料を活用し、開催地域の自然と歴史、文化の三重らしい特徴を、わかりやすく展示したいと思っています。更に開催期間中は、移動展示と関連しながら、展示解説・ワークショップ・座談会・シンポジウム・観察会などを行うこととしています。このような取組によって、来館者には①三重という地域への愛着と活力、②特色を活かした新たな地域を創造する力、③今をつくり

未来を切り開く力、を育んでほしいと考えています。

今回、主に取り上げたのは、志摩地域でみられる森や内湾と外洋の生きもの、海岸の森と海のつながり、イセエビの刺し網漁のにぎわい、志摩の海が現在抱える問題点と解決のための対策でした。志摩市では、平成23年度に「志摩市里海創生基本計画」を策定し、人が海と関わりながら自然をいつまでも活用できるような地域づくりを行っていきとしています。その課題として、海の環境劣化があり、先駆的な取り組みとして、利用されていない干拓地の水門を開放することで海水を導入し、干満を利用して海の浄化能力をもつ干潟を再生するという活動を、移動展示で取り上げました。この

再生干潟のコーナーは、最も狭い展示スペースでしたが、アンケートで最も好評を博しました。アンケートの自由記載欄では、生活に身近なところにある干潟に対して、これまでその消失や環境の変化を視覚的に感じていたことが、展示で改めて気づき考えることができ、またその解決策を応援したいといった記述もありました。

新しい県立博物館は移



展示解説ツアーの様子



関連事業の「館長と語ろう」

動展示をひとつのツールとして、地域ならではの特徴を明らかにするために、県民・利用者の皆さんと共に調査研究や展示などの博物館活動を行うことで、新たな地域を創る取り組みを応援したいと考えています。今回の移動展示では、和具海老網同盟会や志摩市をはじめ、多くの方にご協力をいただきました。

(北村 淳一)



こども体験コーナーの様子

三重大学との連携事業

Cooperating projects between the University of Mie and the New MPM

連携シンポジウム

「志摩の自然を活かす～地域と大学と博物館の連携から～」

The symposium titled “The sustainable coexistence with nature of Shima region by cooperating with Local community, University and Museum”



パネルディスカッションの様子

新県立博物館では、「多様な主体との連携」による活動を進めることとしています。その一環として、三重大学と三重県は平成21年度に新県立博物館に関する連携協定を結びました。以来、博物館と大学との連携が地域に果たす役割を考えるシンポジウムを毎年開催しています。

本年度のシンポジウムは平成24年8月25日（土）志摩市磯部町の志摩市磯部生涯学習センターで開催しました。

新県立博物館では、志摩の自然を基本展示室の「東紀州・熊野灘の自然」

と「磯のくらしと自然」のコーナーでとりあげます。それに向かって、現在さまざまな主体と連携し、研究と展示の準備を進めています。今回のシンポジウムでは、その成果と課題を基礎にして、地域や大学との連携を模索すべく、議論を行いました。

まず、三重大学大学院生物資源学研究科の教員によって基調講演が行われました。木村清志教授は「熊野灘・英虞湾の魚類相」と題し、三重大学の水産実験所での研究をもとに、新種の発見や標本の保存で果たす博物館の役割について講演しました。また、木村妙子准教授は「英虞湾干潟の希少生物と熊野灘深海底の未知の生物群集」と題し、干潟や三重大学の練習船勢水丸での調査、この船

の名前が付けられた新種セイスイガイの発見について講演しました。

続いて、事例報告が行われました。新県立博物館の北村淳一学芸員より、志摩の自然に関係する新県立博物館での展示の考え方について紹介しました。三重県水産研究所の国分秀樹主任研究員からは干潟再生の取り組みについて、志摩市農林水産部の浦中秀人係長は志摩市の取り組みである「里海事業」について、それぞれ報告を行いました。

参加者は201名を数え、志摩で既に地域づくりと密接に関係をもちながら活動を展開している、三重大学・三重県水産研究所・志摩市の3者それぞれの取り組みから、新県立博物館が地域づくりにどのような役割

を果たせるか、地域の様々な主体・三重大学・新県立博物館の連携はどのようにあるべきかを議論しました。漁業関係者も多数参加し、海洋環境の現状について、更にこれからの資源管理のあり方なども含めた具体的な質問もありました。また、志摩マリンランド等博物館関係者にもご参加いただき、海洋生物に関して博物館の持つ意義などにも言及され、活気あふれる行事となりました。

当日は、同じ建物の1階志摩市歴史民俗資料館で同時開催していた県立博物館移動展示「海の恵みとにぎわい～英虞湾と熊野灘から～」へもシンポジウムの来場者が数多く訪れ、にぎわいを見せていました。

（太田 光俊）

紀伊半島北部の代表的な森林植生で、自然を観察する

The Nature Study for Children in Hirakura experimental forest

7月31日（火）に、津市美杉町にある三重大学平倉演習林で、三重大学と連携して小中学生を対象に自然観察会が行われました。平倉演習林には、三重県内でも数少なくなった本来の自然環境であるモミ・ツガなどの針葉樹と落葉樹が混生する天然林が存在し、特

徴的な生物が確認されています。参加者25名は津駅に集合したのち、バスに乗って演習林まで移動しました。現地では、昆虫や植物採集等を通して、この地域の自然環境を観察しました。この日は天気も良く、様々な生きものが観察でき、参加者も楽しんでいる

様子が見られました。このような経験が、より多くの子ども達にとって、自然に興味を持つきっかけになれ

ばと思います。おみやげを片手に、参加者たちは嬉しそうに帰って行きました。

（大島 康宏）



平倉演習林での観察会の様子

建設現場の進捗状況

The Newest State of the New Museum under Construction

新県立博物館の建築工事は終盤を迎え、平成 25 年春の工事完了も間近となっています。エントランス部分が徐々に姿を現し、展示・収蔵庫棟や交流創造エリア部分では、外装工事のガラスのカーテンウォールやテラコッタルーバーの設置が着実に進んでいます。また、内装工事においては、1 階収蔵庫内を中心に仕上げの段階に入っています。



平成 24 年 11 月 20 日現在の建築工事の状況

新県立博物館では、環境への負担を軽減する様々な技術を導入しており、その 1 つに太陽光発電があります。計画当初では、建物の屋上部

分に 20kW（公称出力）の太陽光パネルの設置を予定していたものに加え、展示室の上部屋根面に 100kW の太陽光パネルを追加設置し、自然

エネルギーの利用拡大に努めています。

パネルは、現時点で発電効率が高い“多結晶型”のものを採用し、パネルから反射する光を抑える“防眩仕様”^{ぼうげん}とすることで、周辺環境へも配慮しています。また、パネルを屋上・屋根部へ設置することで、屋根の熱

負荷を低減します。

開館後は、発電した電気を館で使用し、太陽光発電力量をデジタル表示することにより“見える化”を図るほか、施設見学の際には、設置されている太陽光パネルの見学も検討しています。

（田畑 衛）



太陽光発電パネル 100kw(平成 24 年 10 月 30 日現在)

お知らせ

The Information for Events

三重のくらしの記録写真収集事業

みなさんのお住まいの地域やお宅に、古い写真はありますか？

現在、三重の豊かな自然の中で育まれたくらしの移り変わりを物語る古い写真（衣・食・住、仕事、遊び、まつりなど）を集めています。また、県内 5 か所で写真収集への協力を呼びかける写真パネル展も開催しています。詳しくは、博物館 HP をご覧ください。多くの方のご協力をお願いします。

おせち料理プロジェクト

～新博ティーンズプロジェクト PART IV～

子どもたちと一緒に、三重県のおせち料理について大調査をします。みなさんのお家のおせち料理について、いろいろと教えてください。3 月 3 日には総合文化センターで「おせち料理交流会」も開催する予定です。ぜひご参加ください。

みんなでつくる博物館会議

日時 平成 25 年 2 月 10 日（日）13:30～16:30

場所 三重県総合文化センター セミナー室 C

新しい県立博物館について、利用者の方々と意見交換を行います。今年度はボランティアやグループ活動など「県民が参加しやすい組織」をテーマに、小グループでの議論も交えて博物館利用のあり方について一緒に検討します。

サポスタフェスタ

日時 平成 25 年 3 月 2 日（土）10:00～16:00（予定）

場所 三重県総合文化センター 第 2 ギャラリー

三重県立博物館サポートスタッフのみなさんの 1 年間の活動成果を、展示やワークショップで紹介します。ぜひご来場ください。

お問い合わせ

三重県環境生活部新博物館
整備推進プロジェクトチーム

〒514-0006 三重県津市広明町 147-2
三重県立博物館内

TEL : 059-228-2283（代表）
FAX : 059-229-8310
E-mail shinhaku@pref.mie.jp

新県立博物館の情報は、
ホームページをご覧ください。

[http://www.pref.mie.lg.jp/
SHINHAKU/HP/](http://www.pref.mie.lg.jp/SHINHAKU/HP/)